

特別支援教育部会 研究の構想（案）

令和2年度～

I 研究主題

特別な支援を必要とする生徒の個性や能力を伸ばし、自立と社会参加を推進する指導はどうあればよいか。

II 主題設定の趣旨

これまで、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導を進めるために、校内支援体制の充実、個別的教育支援計画及び個別の指導計画の活用と見直しの推進、指導過程や評価の工夫等を通して、自立や社会参加を実現するための指導について研究を進めてきた。また、生徒の実態に応じた指導計画に基づく多様な体験活動の場の設定にも取り組んできた。その結果、生徒が生き生きと活動に取り組み、成就感や達成感を味わうことで自己の能力や可能性を伸ばし、生きる力を高める実践が行われ、多くの成果を収めることにつながった。

グローバル化等、社会の急激な変化の中で、多様な人々が共に生きる社会の実現が目指されている。通常の学級にも、発達障害等様々な支援を必要とする生徒が在籍しており、通級による指導をはじめとする、教育的ニーズに応じた指導方法の工夫や保護者及び関係機関との連携した支援が必要とされている。生徒同士が個々の多様性を尊重し生活していくことができるよう、教育活動全体で、障害の理解や障害に応じた指導方法の改善、交流及び共同学習の一層の推進を図りたい。

そこで、これまでの成果を生かしながら、通級による指導を含むさらなる支援体制の充実、個別的教育支援計画及び個別の指導計画の効果的な活用の推進、指導過程や評価の工夫等を通して、生徒がその能力や可能性を伸ばし、自立と社会参加を推進するための指導についての研究を進めていきたい。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

特別な支援を必要とする生徒が個性や能力を伸ばすために必要な指導の在り方について研究を進める。

2 研究内容

- (1) 生徒の個性や能力を伸ばすための支援体制を充実する。
 - ・校内委員会を機能させた支援体制の充実と、合理的配慮の検討
 - ・個別的教育支援計画を活用した幼・保、小、中、高等学校及び特別支援学校間での連携
 - ・家庭や地域社会、関係機関（教育、福祉、医療等）との連携
 - ・計画的、組織的に取り組む交流及び共同学習等の推進
 - ・特別支援教育に関する校内研修の充実
- (2) 生徒の個性や能力を伸ばすための教育課程を編成する。
 - ・障害の状態や発達段階の的確な把握
 - ・生徒の教育的ニーズに応じた各教科等における指導内容や指導方法の工夫及び自立活動の工夫
 - ・通級指導教室における自立活動の充実
 - ・個別的教育支援計画及び個別の指導計画の定期的な見直しと指導の充実
- (3) 生徒の個性や能力を伸ばすための指導過程や評価を工夫する。
 - ・主体的に取り組む単元や題材の開発
 - ・意欲を高める効果的な教材・教具の開発
 - ・生徒の思いや願いを生かし、困難さに応じた適切な学習活動とその評価の工夫

特別支援教育部会 令和4年度研究計画（案）

I 研究主題

特別な支援を必要とする生徒の個性や能力を伸ばし、自立と社会参加を推進する指導はどうあればよいか。

－生徒の教育的ニーズに応じた学習過程の工夫－

II 主題について

これまで、生徒の自立や社会参加を目指し、生活に生かすことのできる基礎的な知識及び技能を身に付けるために、個別の教育支援計画及び個別の指導計画に基づいて、一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図るための実践的研究を進めてきた。

具体的な取組として、

- ・人と関わる体験を通してコミュニケーション能力を高めるための指導の推進
- ・生徒同士が関わりをもち、学び合うための指導過程の工夫
- ・一人一人の学習を支援するためのICT機器の活用や、教材・教具の開発、指導法の工夫
- ・個別の教育支援計画及び個別の指導計画を生かした進路指導に関する情報交換や研修の推進等が挙げられる。実践的研究では、一人一人の教育的ニーズに応じた目標や指導内容を明確にして取り組んだ。また、自分の思いを素直に表現して伝えたい事柄や内容を選択できる場の設定・工夫をしたり、ICT機器を学習ツールとして活用したりすることで、生徒が成就感や達成感を味わい、自己肯定感を高めることにつながった。

今年度は、これまでの成果を踏まえ、インクルーシブ教育の理念を基本とし、教育活動全体を通して成就感や達成感を味わわせ、自己肯定感を高める指導を行う。そして、学习上又は生活上の困難を改善・克服し、他者と共に生活していく意欲やスキルを身に付けさせるための学習過程やICT機器の活用を工夫する。それらにより、生徒の個性や能力を伸ばして自立を促し、社会参加を推進することができると考え、令和2年度から継続し、標記の研究主題を掲げた。

III 研究内容とその視点

1 校内支援体制の充実

- (1) 特別支援教育コーディネーターが中心となって校内委員会を企画・運営し、生徒の実態把握や支援方策、提供できる合理的配慮の検討等を行うとともに、本人・保護者との合意形成に向けた検討等を組織的に行う。
- (2) 特別な支援を必要とする生徒の個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、全教職員の理解と協力のもとでの校内支援体制の充実を図る。
- (3) 交流及び共同学習に計画的、組織的に取り組み、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育む。

2 教育課程の編成

- (1) 一人一人の個性や能力に応じた長期的・短期的な視点に基づく指導目標を設定し、適切な指導内容や指導方法を吟味した個別の指導計画を作成し、時期を明確にした見直しを行う。
- (2) 一人一人の教育的ニーズを把握し、自立活動を効果的に取り入れたり、各教科の内容を替えたりするなどして、生徒の実情に応じた柔軟な教育課程を編成する。
- (3) 将来の自立や主体的な社会参加を目指し、卒業後の進路についての知識を深め、働くことへの興味・関心や意欲を高めるための学習を年間計画に適切に位置付けたキャリア教育を推進する。

- (4) 通級による指導では、一人一人の実態に応じた自立活動を行う。特に必要があるときには、障害の状態に応じて、各教科の内容を取り扱いながら、自立活動の指導を行う。

3 指導過程の工夫

- (1) 生徒一人一人の個性や能力を伸ばすため、各教科における単元・題材及び教材・教具の開発に一層努める。
- ・生活に結び付いた実践的・体験的な活動の工夫
 - ・生徒が主体的に取り組むことができる単元や題材の開発
 - ・生徒の障害の状態を踏まえた教材・教具の開発
 - ・学習の効果を高める I C T 機器の活用
- (2) 生徒が興味をもって主体的に取り組む、自己肯定感を高めることができる場の設定・工夫を推進する。
- ・一人一人の興味・関心や意欲、「できること」にも着目し、自らが活動を選択したり、工夫したりできる場の設定
 - ・自立や将来的な社会参加に役立つ学習内容や単元構想の工夫

4 評価の工夫

- (1) 生徒が成就感や達成感を味わうことができる評価を工夫する。
- ・生徒自身が目標を設定し、できるようになったことを振り返ることができる自己評価
 - ・友達のよさを認め、互いに高め合うことができる相互評価
 - ・教師が一人一人のよい点や可能性、達成状況等を認め、その後の学習や発達を促すことができる個人内評価
- (2) 指導の改善に生かす評価を工夫する。
- ・指導目標の達成状況を的確に把握することによる、個別の指導計画の見直しや指導内容、指導方法の改善に結び付く評価
 - ・一人一人の指導過程や学習の成果が確認できる評価資料の累積と活用

5 家庭や地域社会、関係機関との連携の推進

- (1) 保護者との情報交換を密にし、意思疎通を十分図りながら、自立への支援や適切な進路指導をさらに進める。
- (2) 地域の人々との交流の機会を設け、特別な支援を必要とする生徒への正しい理解と認識を促す。
- (3) 幼・保、小、中、高等学校、特別支援学校及び関係機関（教育、福祉、医療等）と連携し、適切な支援の継続を図るためのネットワークづくりを推進する。

Ⅳ 研 究 方 法

県中教研の研究主題の趣旨に沿って、各郡市中教研で自主的に研究主題を設定し、研究を推進する。

- ・各学校で、研究主題に沿った計画を立て、実践を通して研究主題の解明に当たる。
- ・各種の研究会等へ積極的に参加し、専門的な知識や技能の向上に努める。
- ・他校や郡市・地区間の連携を図り、情報交換を通して研究を推進する。
- ・地域の特別支援学校や幼・保、小、中、義務教育学校、高等学校及び関係機関との連携を深める。
- ・研修を通して特別な支援を必要とする生徒の指導の在り方について、全教職員が理解と認識を深める。

